

うれしの



Contents

年頭所感	2	男性職員の育児休業について	7
嬉野医療センター ドクターカーについて	3	70回生誓いの式が行われました！	8
原子力災害医療中核人材研修に参加して	4	嬉看祭・オープンキャンパスを開催しました	9
第76回国立病院総合医学会参加報告	5	外来診療担当医表	10

基本理念

「命と心をつなぐ医療」

「命と心をつなぐ医療」の実践には、患者の身体的苦痛を取り除くだけでなく、精神的苦痛も理解し和らげる努力が重要である。

また、患者や家族と良好な信頼関係を構築し、安心して治療を受けられる環境づくりが大切である。



年頭所感

院長 力武 一久

新年あけましておめでとうございます。早いもので、今年で院長3年目となります。昨年を振り返ると、コロナの第7波、8波と立て続けに流行し、病棟のひっ迫・スタッフの欠勤が相次ぎ、非常に厳しい病院運営を強いられました。それでも、これまで乗り越えてこられたのは、スタッフのみならず近隣医療機関を含め皆様のご協力とご理解の賜物と感謝申し上げます。まだまだ、コロナの収束は期待できず、長いトンネルの出口が見えないために、モチベーションの維持が難しくなっています。今こそスタッフ一丸となって、この危機を乗り越えていきたいと考えています。

さて、昨年からの新しい試みとして、一つ目は、昨年5月よりドクターカーの運用を開始した事です。嬉野消防署の近隣への移設に伴い、ピックアップ方式で救急現場への医師派遣依頼に対応する仕組みです。気象条件でドクターヘリが運航不能な時、近隣でヘリより早く到着し、病院到着前から医療行為を開始した方がい時などに出勤しています。現在は、まだ17件程度ですが、救命率向上に少しでも貢献できればと思っています。

二つ目は、デジタル化の推進です。昨年より一部の委員会をオンライン会議へと移行しました。これにより、スタッフが会議のために勤務日程の調整をすることが不要となり、日々の業務時間が削減されることが減ったという部署も出てきました。議事録作成も容易になった反面、SNSのようにダラダラと会話が続くこともあり、会議期間の制限や議題の設定など課題も出てきました。今年はさらにオンライン委員会数を増やし、かつ精度を高めていきたいと思えます。

三つ目は、働き方改革推進です。昨年末に出退勤システムが設置され、これから各個人の入力訓練を経て、今年4月より本格導入となります。勤務か自己研鑽か、もっとも重要なところですので、しっかりと定義づけを行って徹底していきます。しかし、最も重要な事は、勤務時間内に如何に効率的に仕事をするかだと思いますので、その意識改革が必要と考えます。その上で、<24時間救急体制を整えていく>、相反するようにも思いますが、これを確立していかなければ地域医療が崩壊してしまうという覚悟で挑戦していきたいと考えています。

以上の継続目標に加え、今年はコンプライアンス遵守を徹底します。昨年末は、元職員の不幸事で紙面を賑わせてしまい、皆様に多大なご迷惑と心配をおかけして大変申し訳ありませんでした。倫理的側面も含め、就業規則の順守を厳格にして、みなし公務員としての立場を汚すことのないように、厳しく対応していきたいと考えております。

まだまだ、収束の見えないコロナ感染症と一般医療を両立して地域に根差した医療の提供に邁進していきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



嬉野医療センター ドクターカーについて

救急科 小野原 貴之

当院は2022年5月9日より、杵藤地区消防本部と協力してドクターカーの運用を開始しました。ドクターカーは病院前救急診療であり、救急医療に精通した医師、看護師が病院外に出向いて治療を開始することから、攻めの救急医療とも表されます。しかしながら医師、看護師であれば誰もが病院外で診療ができるわけではありません。狭い車内での診察や医療行為は時として難しく、詳細な画像検査や血液検査はできるわけではないので、五感を研ぎ澄ませて診療にあたります。

担当の救急科医師は佐賀県ドクターヘリ、長崎県ドクターヘリでのフライトドクターとしての経験があり、今でも定期的にフライトドクターとして活動をしています。また看護師も救急外来や救命救急センター・ICUでの勤務を経て、認定を受けた者が担当しています。凄惨な現場もあり、緊張を強いられることもありますが、地域の方々の生命を守るために活動しています。

病院前救急診療の一つとしてドクターヘリが知られており、皆様も一度は見たことがある人がいらっしゃるかもしれません。ドクターヘリは佐賀県内であれば15分以内で到着できる圧倒的速度が魅力ではありますが、天候不良や日没後は運航できないといった弱点があります。ドクターカーは速度こそ劣るものの機動力があり、荒天の際や日没後でも運用ができるメリットがあります。

2022年12月現在、17件の要請があり、ドクターカーによる早期医療介入が功を奏した症例もありました。しかしながらまだまだ満足できるものではなく、杵藤地区消防本部の方々と症例検討を通じて、1分1秒でも早期医療介入ができ、かつ質の高い病院前救急診療が提供できるようにレベルアップしていかなければなりません。

街中でドクターカーを見かけられた際には、応援していただきつつ、道をお譲りくださればありがたいです。これからも「質」に拘った病院前救急診療を実践し、地域住民の方々の安心、安全を守る医療活動をできるよう研鑽を積む所存です。



原子力災害医療中核人材研修に参加して

放射線科 座木 みゆき

2022年12月9日から11日まで3日間にわたり長崎大学被ばく医療総合研修センターにて原子力規制庁の原子力災害医療中核人材研修に木須技師と参加してきました。この研修は、原子力規制庁の原子力災害等医療実効性確保事業の一環として開催されるもので、医師、看護師、診療放射線技師等を対象に、被ばく・汚染傷病者の対応において中心的役割を担える人材の育成を目指して行われています。今回の研修参加者の内訳は医師8名、看護師13名、診療放射線技師7名、臨床検査技師1名の計29名で北海道や福島県といった遠方からの参加者もいらっしゃいました。

内容としては、1日目に座学、2日目に放射線測定器の取り扱いや傷病者の汚染検査、除染作業の実習、机上訓練、3日目に医療施設の養生から防護衣の着脱、被ばく・汚染傷病者対応の一連をシミュレーションするといった盛り沢山の研修内容でした。

最も印象に残った研修は3日目のシミュレーションです。医師・看護師・診療放射線技師がチームを組み、ホットゾーンとコールドゾーンに分かれ協力しながら診療を進めていきますが、被ばく・汚染傷病者対応の施設の養生を行ったのもタイベックススーツを着たのも初めてで日頃から行っている感染対策とは全く別物で大変勉強になりました。技師として診療に加わることはありませんが、放射線の汚染部位を特定したり除染ができたか逐一測定を行い、診療に集中し忘れがちになる手袋を変えるタイミングを医師や看護師に伝えたりと、汚染拡大を防ぐ役割にやりがいを感じました。初めての原子力災害医療は経験しておかないと分からない事ばかりで講師の方の、「事前の準備と訓練が非常に大事です」の言葉が印象に残っています。原子力発電を有する佐賀県において原子力災害医療協力機関である当院は、被ばく・汚染傷病者の受入れを当然もとめられます。使う機会が無い方が良いスキルですが、いざと言う時にしっかり役に立てるように準備しておきたいと思います。

最後に、業務が多忙にも関わらず快く研修に送り出していただいた技師長はじめ放射線科スタッフの皆様に感謝申し上げます。



第76回 国立病院総合医学会 参加報告

放射線科 木須康太

今回第76回国立病院総合医学会において「心カテ検査における被ばく低減の検討」の演題でポスター発表をさせていただき、ベストポスター賞を受賞することができました。今回の研究の内容は心カテ検査においてX線防護シートを用いることで、どの程度放射線被ばくを低減できるかというものです。



昨年、医療法施行規則の改正や改正電離放射線障害防止規則が施行され、放射線被ばくに関して規制が厳しくなっています。また、業務を行う中でTVドラマ等の影響もあり「放射線」や「被ばく」に関しての関心が高まっているように感じます。心カテ検査は他の検査に比べて放射線被ばくがどうしても多くなります。今回の研究では患者さん及びスタッフの被ばく線量を少なくするために、X線防護シートを患者さんの体の下に敷いたり、横に置いたりすることで放射線被ばくを大幅に減らすことができるとの結果になりました。今後も研究を続け日常業務での適正な放射線被ばく管理を行っていきたいと思います。

今回の学会では久しぶりに現地開催となりました。Webとは違う学会の緊張した雰囲気や熱気を感じることができ、また様々な業種の旧友とも再会し交流することができ学会を満喫することができました。もちろん熊本夜の街も堪能してきました。

今回発表に関してご指導・協力していただいた放射線科のスタッフや心カテ室のスタッフのおかげで今回賞を受賞することができたと思います。本当にありがとうございました。

研修医1年目 望月一貴

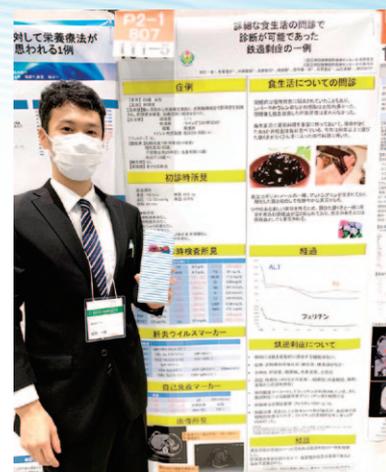
この度国立病院総合医学会にてベストポスター賞を受賞しましたので、報告します。今回私は肝胆膵疾患のセッションで、“詳細な食生活の問診で診断が可能であった鉄過剰症の一例”で発表しました。本症例は鉄過剰症の患者に対して、問診を重ねて詳細に食事摂取歴を聴取することで原因が判明したという1例であり、丁寧に問診をすることが治療法や診断の精度を向上させることが学べた大変貴重な症例でした。

発表スライドを作り始めた当初は自分の担当した症例が少なく、多くの先生方にご相談しましたが、どの先生も快く一緒に症例を探していただき、そのおかげでとても興味深い症例を発表することができました。本番1週間前の発表予行会では多くの先生からポスターのレイアウトや発表方法についてご指導いただき、今後の

学会での発表の練習にもなり大変有意義な時間となりました。発表当日は緊張しましたが、当院の先生方に応援に来ていただき、自信を持って発表することができました。ベストポスター賞が発表され、くまモンの水筒をいただいた時は本当に嬉しく、来年もしっかり準備をして発表したいと思いました。

またポスター発表以外にも大学時代の同級生や研修医の同期と熊本の美味しいグルメを堪能でき充実した2日間を過ごすことができました。来年の国病学会がすでに待ち遠しいです。

お世話になった指導医の先生方、ありがとうございました。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。



研修医2年目 深村 光

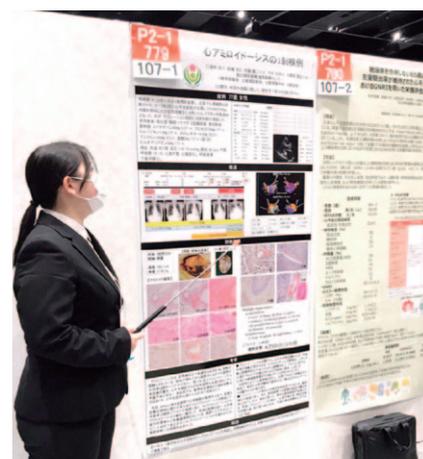
この度、国立病院総合医学会にてポスター賞を受賞しましたので、報告いたします。

今回、私は循環器疾患セッションで、【心アミロイドーシスの1剖検例】というテーマで発表いたしました。心アミロイドーシスはその早期診断の重要性が示されていますが、まだまだ診断に苦慮するケースの多い疾患です。今回は剖検結果と臨床経過を併せて評価することで、改めて心アミロイドーシスの特徴的的症状や想起するポイントについて発表することができました。開催地の熊本県が、アミロイドーシス研究所の存在する本場であることもあり、発表にも気合が入ったように思います。

医師となっても新型コロナウイルス感染症が流行する中で、今回が初めての全国学会発表ということもあり、準備期間はポスター制作の段階から試行錯誤する日々でした。3分間という短い発表時間であったため、「何を伝えるのか、如何に伝えるのか」を意識して医学的な内容だけでなく、文字の大きさや写真・図のレイアウト等にもこだわりを持ってポスター制作を行いました。肝心の発表内容に関しても、指導医の先生に幾度も確認と推敲をしていただき、最終的には血の通ったポスター・原稿と共に発表に望むことができました。ポスター賞をいただいたときは本当に嬉しかったです。

学会では、自分自身の発表だけでなく、他地域の研修医の発表を聴くことができたことも刺激となりました。活気あるディスカッションや稀少な症例発表など全国学会だからこそその経験をさせていただいたと思います。今回の経験を忘れず、今後も日々の診療ひとつひとつに向き合っていく所存です。

最後になりましたが、手厚く指導していただいた病理診断科、循環器内科の先生方、教育研修部の方々、研修医の皆、本当にありがとうございました。





男性職員の育児休業 について



今般、希望に応じて男女ともに仕事と育児を両立できるようにするため、育児休業をより柔軟に取得できるようにするなどの育児・介護休業法の改正等がなされています。国立病院機構も同様に、令和4年10月より育児等に関する休暇・休業制度の改正がなされ施行されています。

当院も男性職員の育児休業取得者は少しずつ増加しているところですが、決して多くはないところです。今回、実際取得してみた感想を薬剤部の河野さんより伺いましたので、ご参考になれば幸いです。

薬剤部 河野 大希

育児休暇を取得した理由

まず、なにより大きかったのは薬剤部長や薬剤部全体が育休取得を勧めてくれ、仕事のフォロー等を行ってくれたことです。漠然とではありますが男性の育休は取得しづらい印象がありましたので、育休取得の背中を押していただけたことは本当に感謝しています。

次に、昨年度までいた施設で同期の男性薬剤師が育休を取得していたことです。育児を行うことの大変さや喜びなどを間近で聞くことが出来たのも良いきっかけとなりました。

最後は妻との話し合いです。初めての出産・育児でありお互い未知のことも多く、また父親としても育児と一緒にいこうといったものなのか経験すべきだと感じたことがきっかけです。

仕事の影響

1か月間の育休取得でしたが個別の仕事は引継ぎを行い、全体の業務に関しては部署全体でフォローしてもらい乗り越えました。個別の業務を増やすことになったのでフォローしてくださった方々には感謝しています。

育児による気持ちの変化

「育児は楽しいこともあるけど、大変だ」というのは育休取得者の様子を見ていても分かりました。もちろんそれなりに覚悟していたつもりではありますが、実際にその状況になってみると辛いと思うことも多々あります。生後3か月になった今でも日中はもちろん夜間も起床する赤ちゃんに対応するというのは大変であり、常に面倒を見てくれる妻には頭が上がりません。夜中おむつを替えることから始まり、産婦人科に沐浴の方法を習って実践する、予防接種に連れて行くなど常に新しいことばかりで大変ではありますが、子の成長を妻と一緒に間近で見ることができたのは非常にいい経験となり、また喜びになりました。

産後の妻のフォローという点では実際にどこまで出来たかは分かりませんが、2人で話し合いながら一緒に育児を行えた時間はとても有意義なものでした。

70回生 誓いの式が行われました!



決意表明

私たちは、安楽に過ごせる環境づくりを目指します。

そして、ご家族と患者さんに寄り添うことで身体・精神・社会的な負担を取り除き、柔軟に対応します。対象を理解しようという思いをもってコミュニケーションを図り、信頼関係をつくり、対象の生きがいや希望に応じた看護を提供します。

看護はチームで提供するものであるため、情報共有を確実にし、切れ目のない治療や医療の効率化、質の向上に努めます。

陰での努力を怠らず、真摯に向き合い、責任感を持ちます。様々な経験と学びを通して、臨機応変に対応できる看護師を目指し、初心を忘れず、向上心を持ち、生涯学習し続けることを誓います。

決意表明への思い

70回生それぞれが目指す看護師像への意見を出し合い、また未来の医療においてどういった看護が必要であるかについても考えました。それぞれの考え、思いを部分的に繋いでいき、70回生の誓いの言葉として決意表明をしました。これからの学校生活で学んだこと、感じたことなどを忘れず皆様そして自分自身に誓った看護師となれるよう勉学に励んでいきたいと改めて感じる式になりました。

キャンドルサービス



ナイチンゲール像から一人ひとり灯を受け取りました。キャンドルサービスは、ナイチンゲールからクリミア戦争の野戦病院において、夜もランプを持って傷病兵を励まし看護にあたっていたことにちなんで、看護の初心と志を忘れないために行われています。

看護技術披露(血圧測定)



誓いの式終了後、看護学校に入学してから得た技術を初めて保護者に披露しました！この日のために全員、一生懸命練習したおかげで、堂々と披露できました！

嬉看祭・オープンキャンパスを開催しました

今年度の嬉看祭は、笑顔というテーマのもとで学生や地域の方々に楽しんでいただけるような企画を実施しました。学生が考案した免疫力アップレシピの紹介や、スーパーボールすくいやわなげなどの縁日、日用品や雑貨、衣服などのフリーマーケットを行いました。また、三店舗のキッチンカーに来ていただくことができました。そして一日を通して学生ステージを行いました。学生による歌やダンス、イントロドン、看護にまつわるクイズ大会が行われました。クイズ大会では教員も参加し学校全体で楽しむことができました。また今年度の嬉看祭はオープンキャンパスと同時開催で行いました。看護技術体験や動画を活用した学校・寮紹介などの企画を通して多くの高校生に本校の魅力を伝えることができました。新型コロナウイルス感染症拡大により学年間や地域とのかかわりが希薄化してしまっていたのですが、これらの企画を通して改めて人とつながることの楽しさや大切さを実感しました。嬉看祭で学生それぞれが学んだことをこれからの学習につなげていきたいと思えます。

学生ステージ



歌・ダンス、クイズ大会 など

看護技術体験



心音聴取 抱っこ体験

学校・寮紹介



縁日



輪投げ、スーパーボールすくい など

他にも**白衣の試着体験**や実際に使用している**教材の紹介**、**フリーマーケット**を行いました！
今回の嬉看祭・オープンキャンパスを通して本校を知っていただく機会となったら幸いです。

是非、来年のオープンキャンパス・嬉看祭のご参加お待ちしております！！

嬉野医療センター 外来診療担当医表

R4. 10. 14 ~

区 分		月	火	水	木	金
総合診療科	午前	黒木 江副 松尾	江副 山田	黒木 松尾	江副	黒木 山田
呼吸器内科	午前	佐々木 中富	小宮 高尾	佐々木 中富	佐々木 小宮	中富 小宮
消化器内科	午前	木村 (肝臓) 山口 (消化管) 田中 (消化管)	野村 (消化管) 有尾 (肝臓) 綱田 (消化管) 日野 (肝臓・胆嚢・膵臓)	日野 (肝臓・胆嚢・膵臓) 藤本 (消化管) 石田 (消化管)	綱田 (消化管) 有尾 (肝臓) 山口 (消化管) 水田 (消化管)	木村 (肝臓) 田中 (消化管) 石田 (消化管)
循環器内科	午前	合力 城島	下村 柿本	合力 不整脈外来 (再診のみ) 大坪 (毎週水曜日) (大学応援医師)	下村 嘉村 (ペースメーカー)	柿本
心臓血管外科	午前		高松 古賀			高松 古賀
糖尿病内分泌内科	午前	井上 (新患) 高木 (新患・再診)	明島 (再診)	明島 (新患) 井上 (再診)	明島 (再診)	井上 (再診) 応援医師 (再診)
リウマチ科・内科	午前	庄村	内田	荒武	荒武	庄村 内田
神経内科	午前	小杉 (新患) 森 (再診)		小杉 (新患・再診) 森 (新患・再診)		小杉 (再診) 森 (新患)
腎臓内科	午前	野中	力久 山下	橋本 山下	野中 橋本	野中
小児科 (午後は完全予約制)	午前	大串 (再診)	島田 (再診)	吉浦 (再診)	樋口 (再診)	浦島 (再診)
	午後	小児腎臓外来 小児アレルギー外来	乳児健診 予防接種外来	小児循環器外来 小児アレルギー外来 (第2週目)	小児アレルギー外来	小児代謝・内分泌外来 小児アレルギー外来 小児神経外来 (第2週目)
呼吸器・乳腺外科	午前	近藤 浦川	近藤 浦川			
	午後	近藤 浦川 (受付 12時半～13時半)				
消化器外科	午前			黨内 田 (消化器・一般)	和田	渋谷 (消化器・一般)
整形外科	午前	村田 中山 岸川	小河 梅木 中尾	古市 村田 岸川	小河 中尾 中山	古市 村田 梅木
脳神経外科	午前	土持	宮園		宮園 麦田 (再診のみ)	土持
皮膚科	午前	田中 (紹介のみ) 嘉村 (紹介のみ)	田中 (紹介のみ) 嘉村 (紹介のみ)	田中 (紹介のみ) 嘉村 (紹介のみ)	田中 (紹介のみ) 嘉村 (紹介のみ)	田中 (紹介のみ) 嘉村 (紹介のみ)
形成外科	午前	猪狩				
泌尿器科	午前	谷口 (再来) 林田 (新患)	谷口 (新患) 林田 (再来) 正戸 (再来)		谷口 (新患) 林田 (再来) 正戸 (再来)	谷口 (再来) 正戸 (新患)
	午後	予約外来			予約外来	
婦人科	午前	一瀬	中島		楠本	小松
産科	午前	楠本	小松	助産外来 (9時～16時) (完全予約制)	小松	楠本
	午後	母乳外来 (14時～16時) (完全予約制)	助産師外来 (14時～16時) (完全予約制)		母乳外来 (14時～16時) (完全予約制)	助産師外来 (14時～16時) (完全予約制)
眼科	午前	岩切 (予約制) 初瀬 (予約制)		岩切 (予約制) 初瀬 (予約制)		岩切 (予約制) 初瀬 (予約制)
耳鼻咽喉科	午前	久永 (予約制)	久永 応援医師		久永 応援医師	久永 (予約制)
	午後			久永 (予約制) (診察: 13時～16時)		
放射線科		午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療	午前・午後 診療
術前診察			午前診療			午前診療
緩和ケア		午前診療	午前診療	午前診療	午前診療	午前診療
ペインクリニック	午前	香月 北村	香月 北村			香月 北村
入院評価		午後診療	午後診療		午後診療	
救急科 (8:30～17:15)		藤原 小野原 小牧 松尾	藤原 小野原 小牧 松尾	藤原 小野原 小牧 松尾	藤原 小野原 小牧 松尾	藤原 小野原 小牧 松尾
歯科口腔外科 (8:30～17:00)		井原 秋浦 (紹介のみ)	井原 秋浦 (紹介のみ)	井原 秋浦 (紹介のみ)	井原 秋浦 (紹介のみ)	井原 秋浦 (紹介のみ)